

感染症発生動向調査に基づく 腸管出血性大腸菌感染症の発生動向

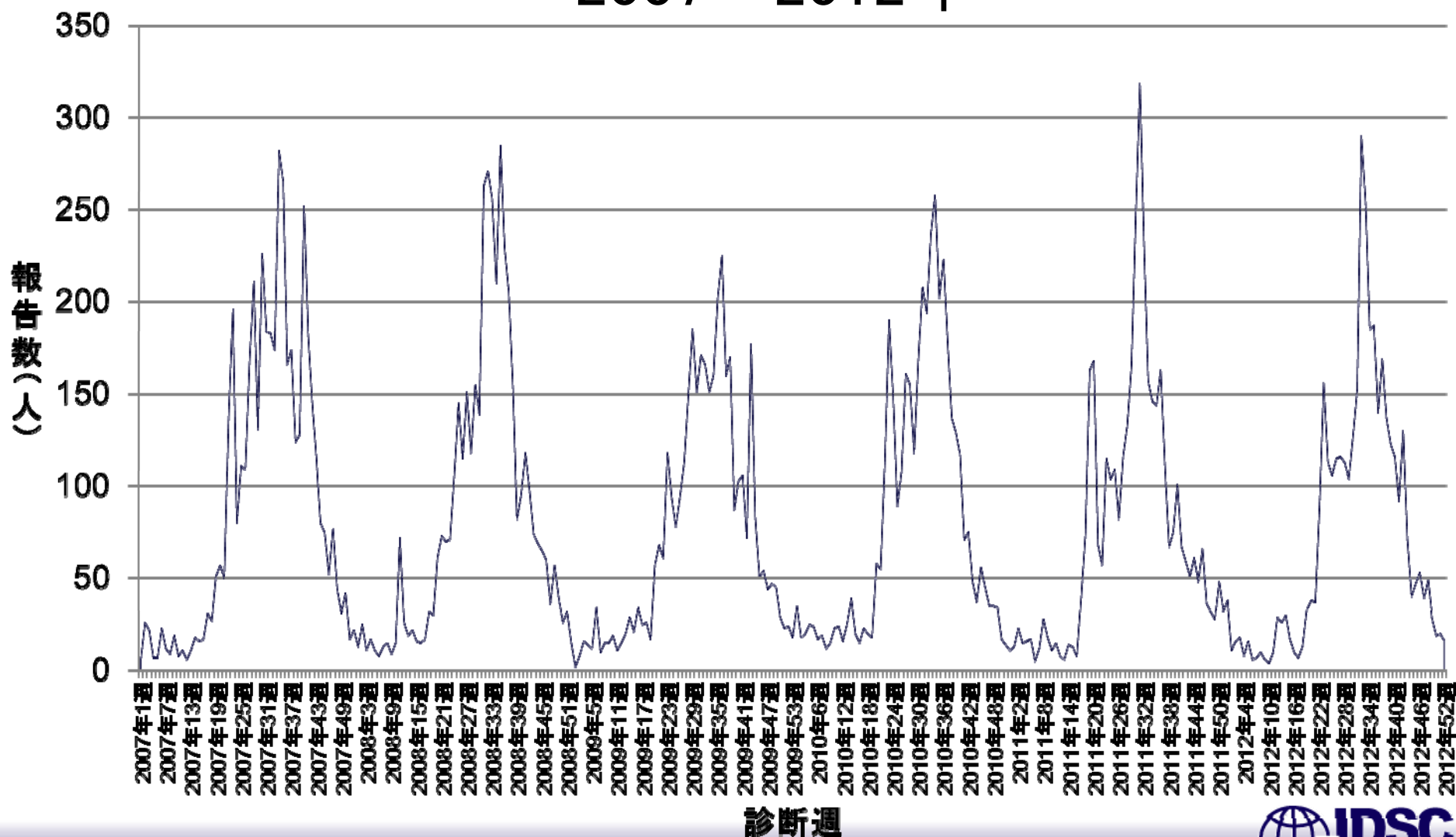
平成24年度 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会

食中毒部会

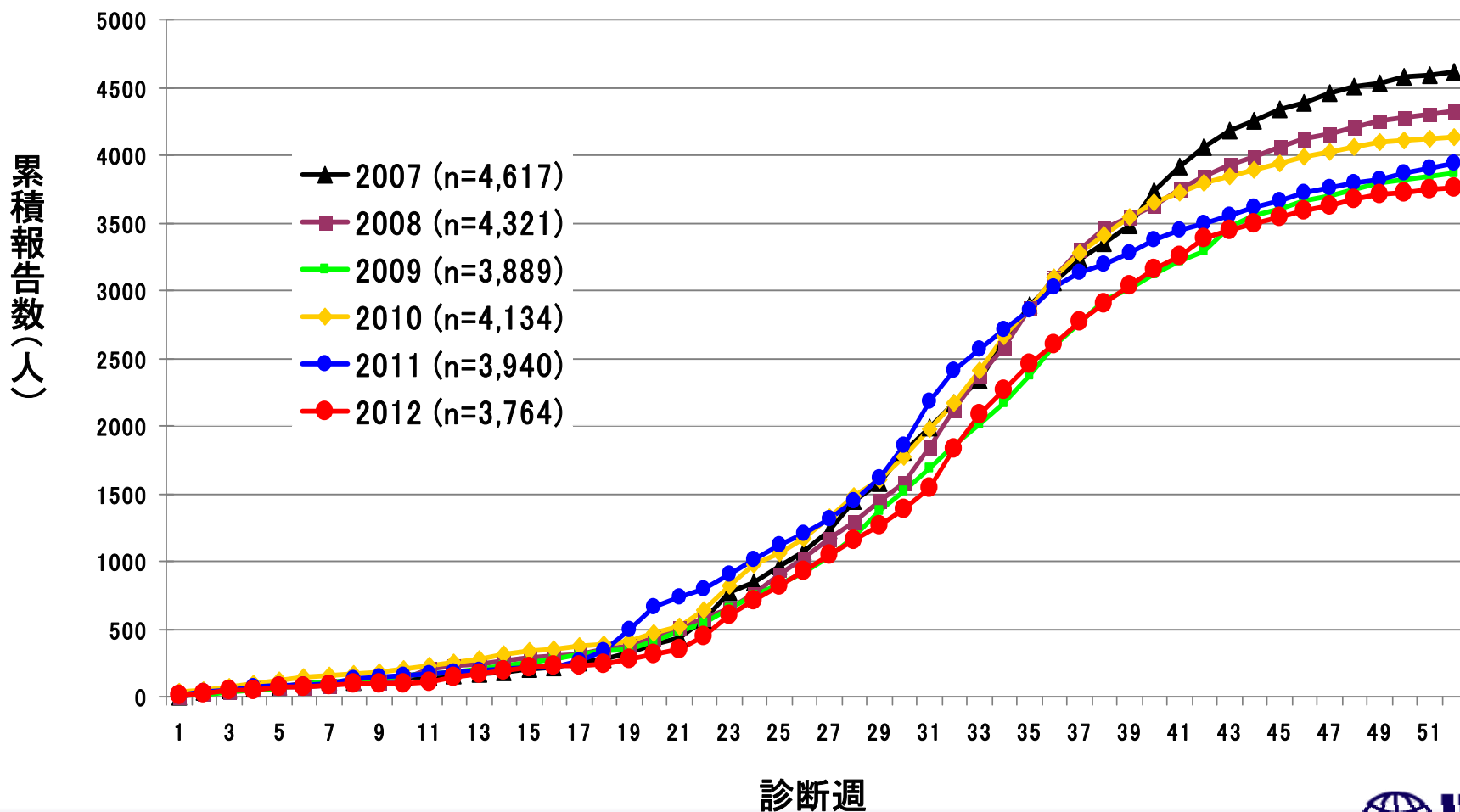
2013年3月18日(月)

国立感染症研究所感染症情報センター

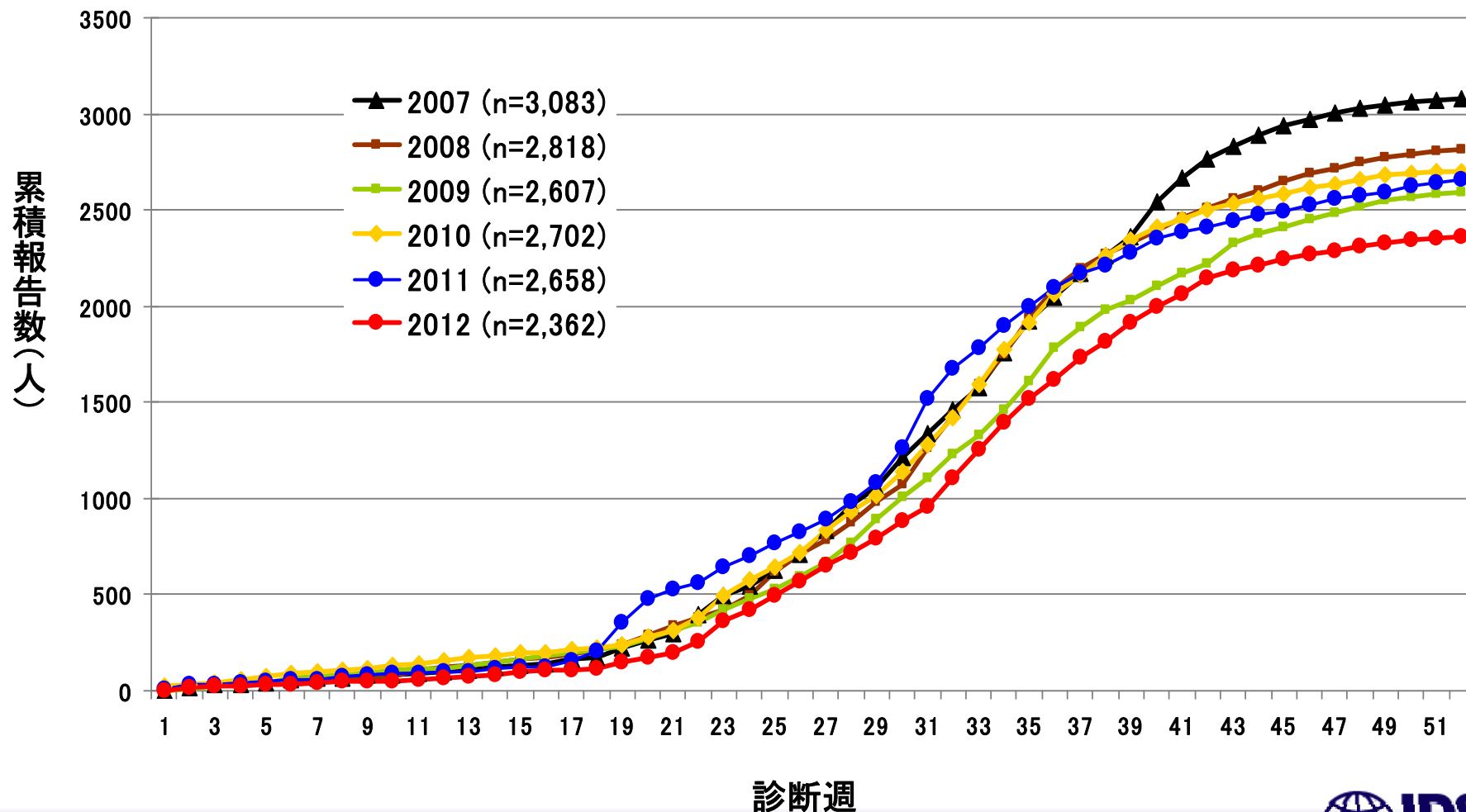
週別腸管出血性大腸菌感染症報告数 2007～2012年



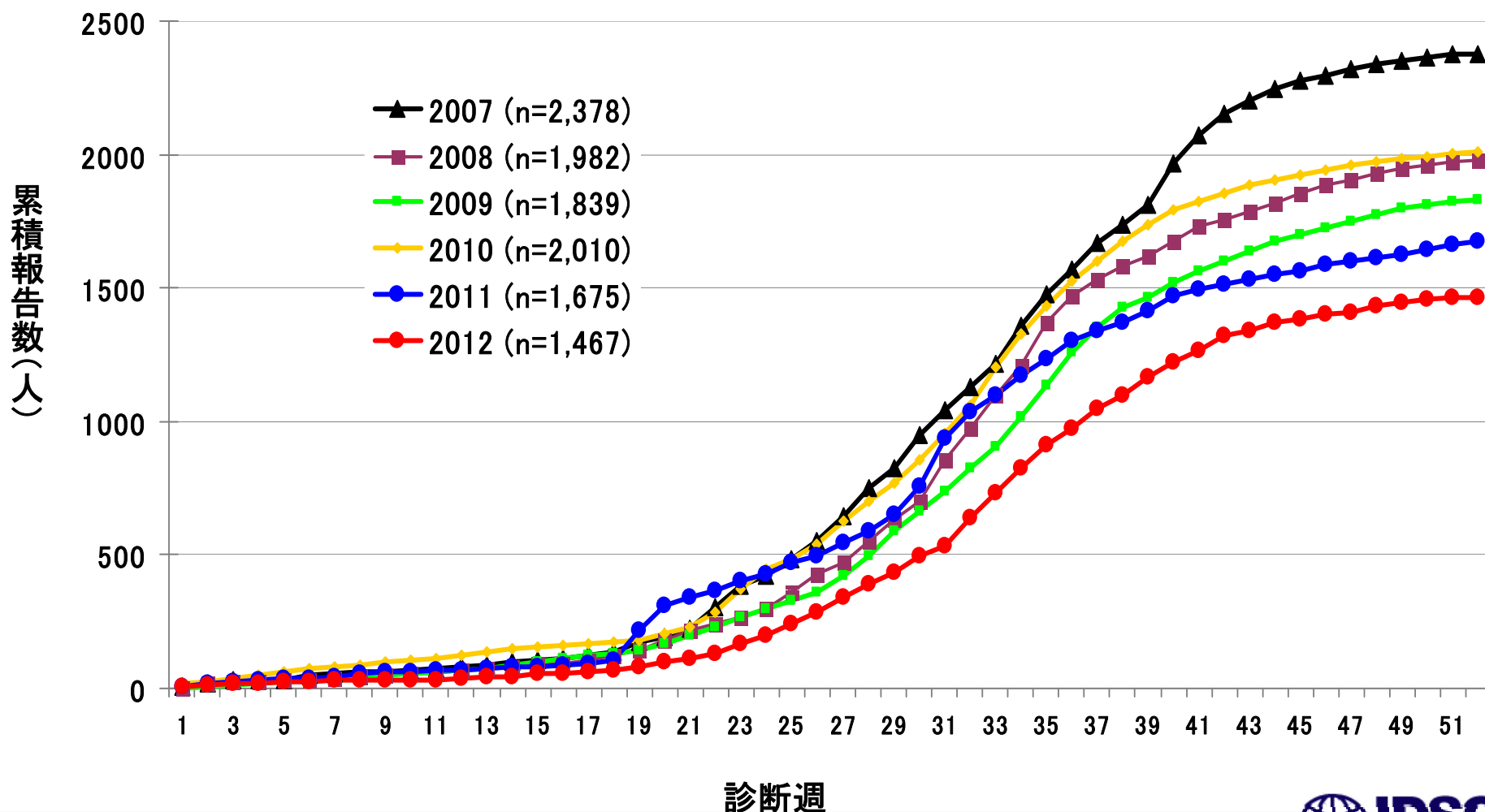
週別腸管出血性大腸菌感染症累積報告数—1 2007～2012年



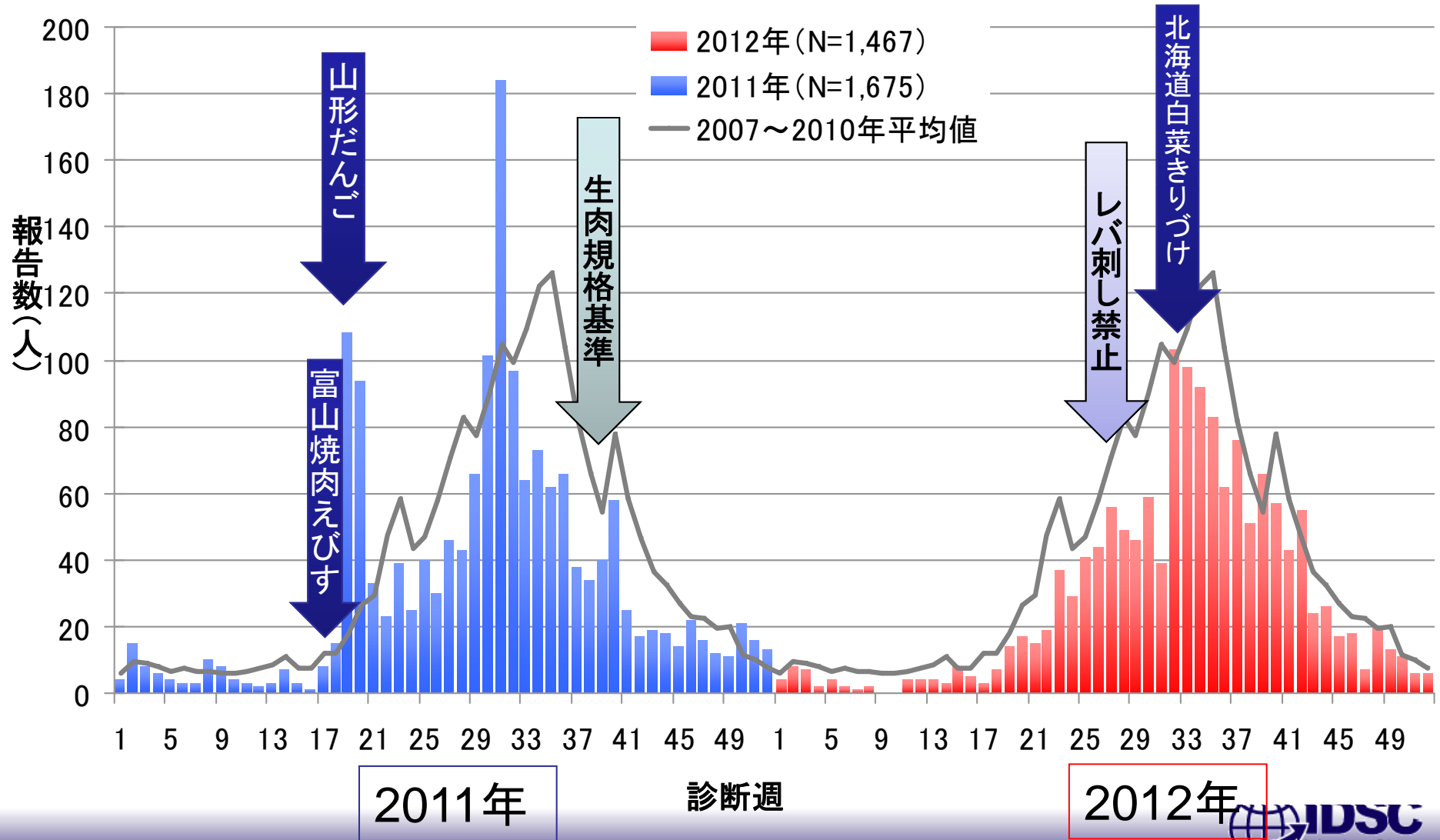
週別腸管出血性大腸菌感染症累積報告数 - 2 (有症状者のみ) 2007~2012年



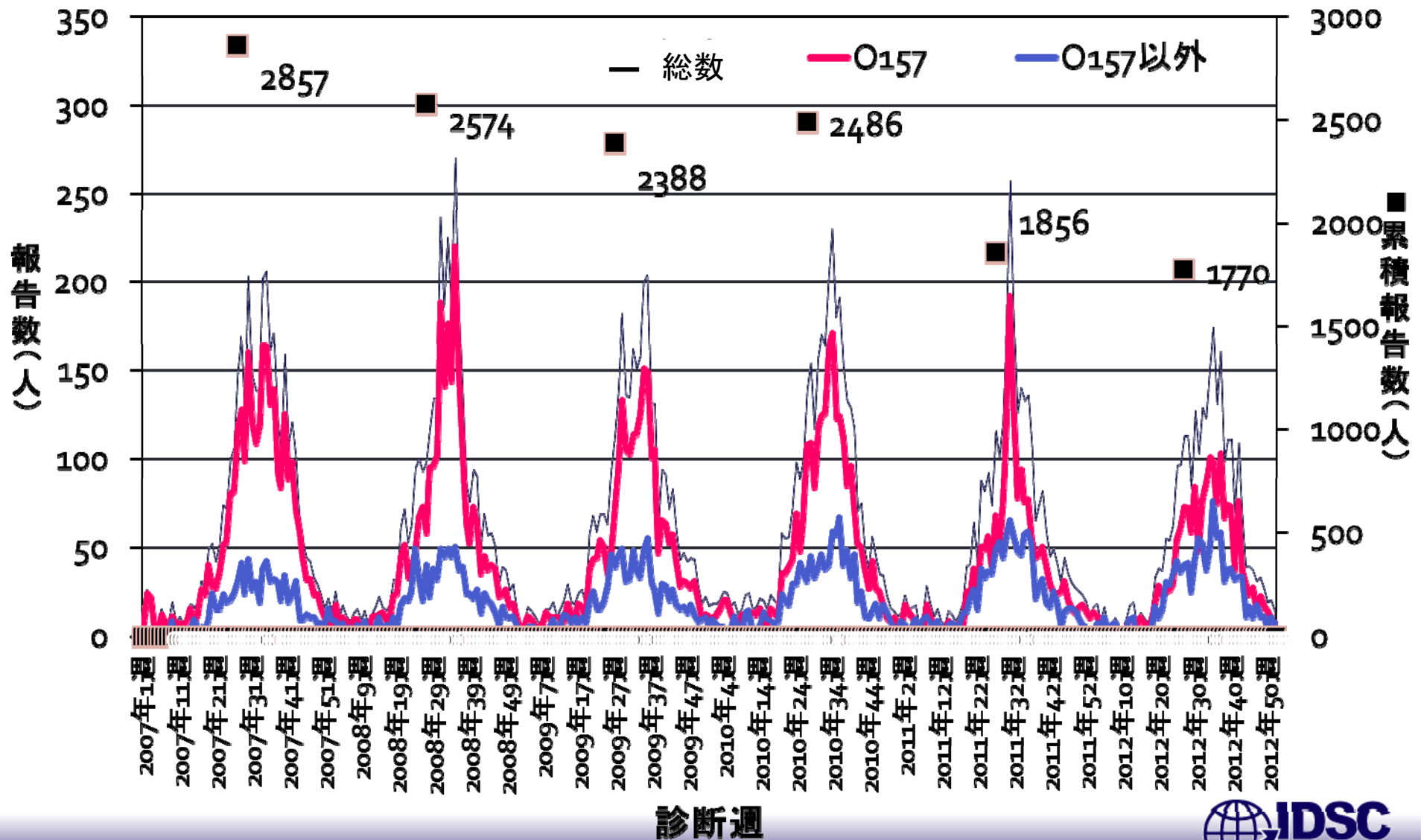
週別腸管出血性大腸菌感染症累積報告数—3 (O157有症状者のみ) 2007~2012年



週別腸管出血性大腸菌感染症報告数 (O157有症状者のみ) 2011~12年

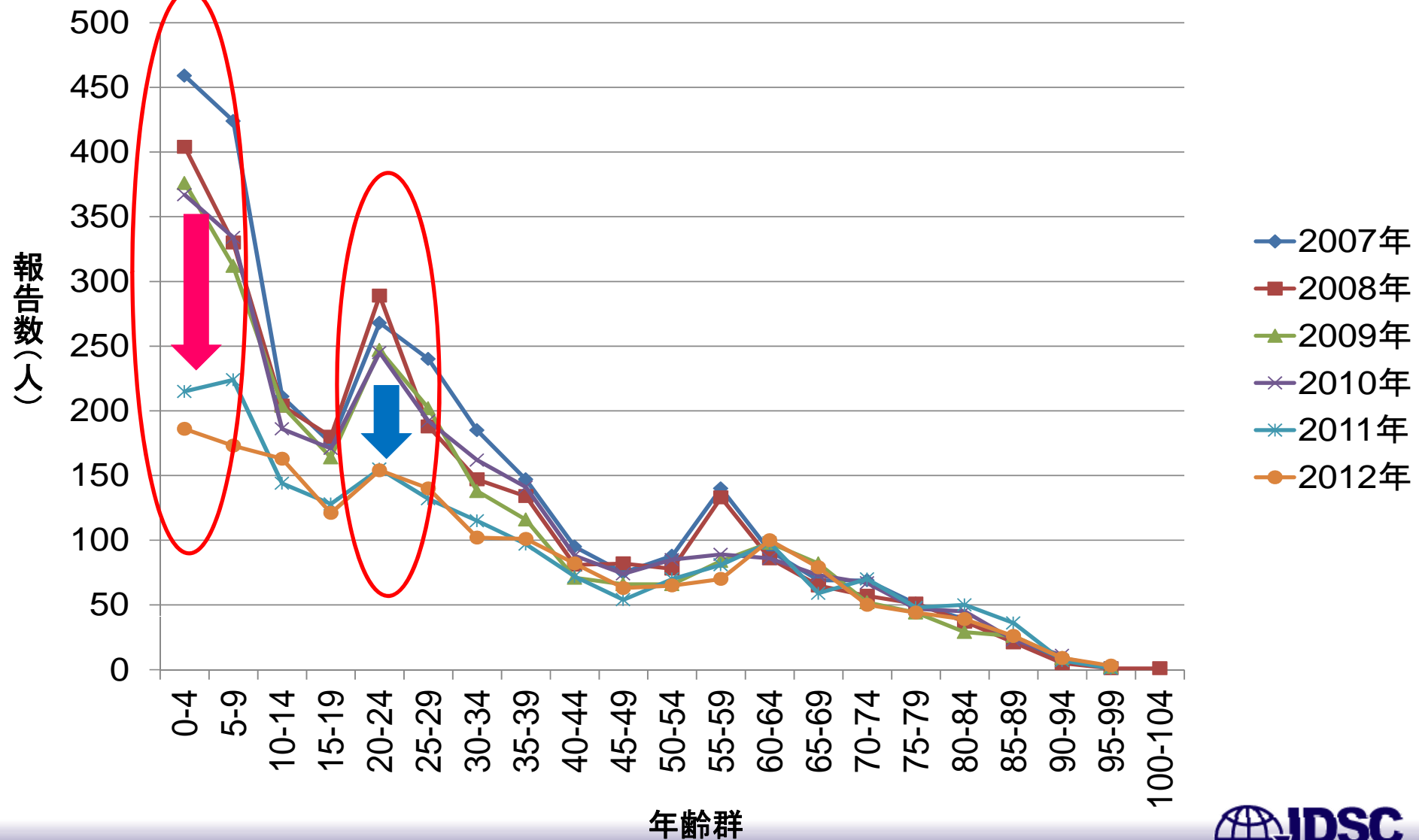


週別・血清群別腸管出血性大腸菌報告数・累積報告数 (有症状者のみ、集団発生除く)(2007-12年)

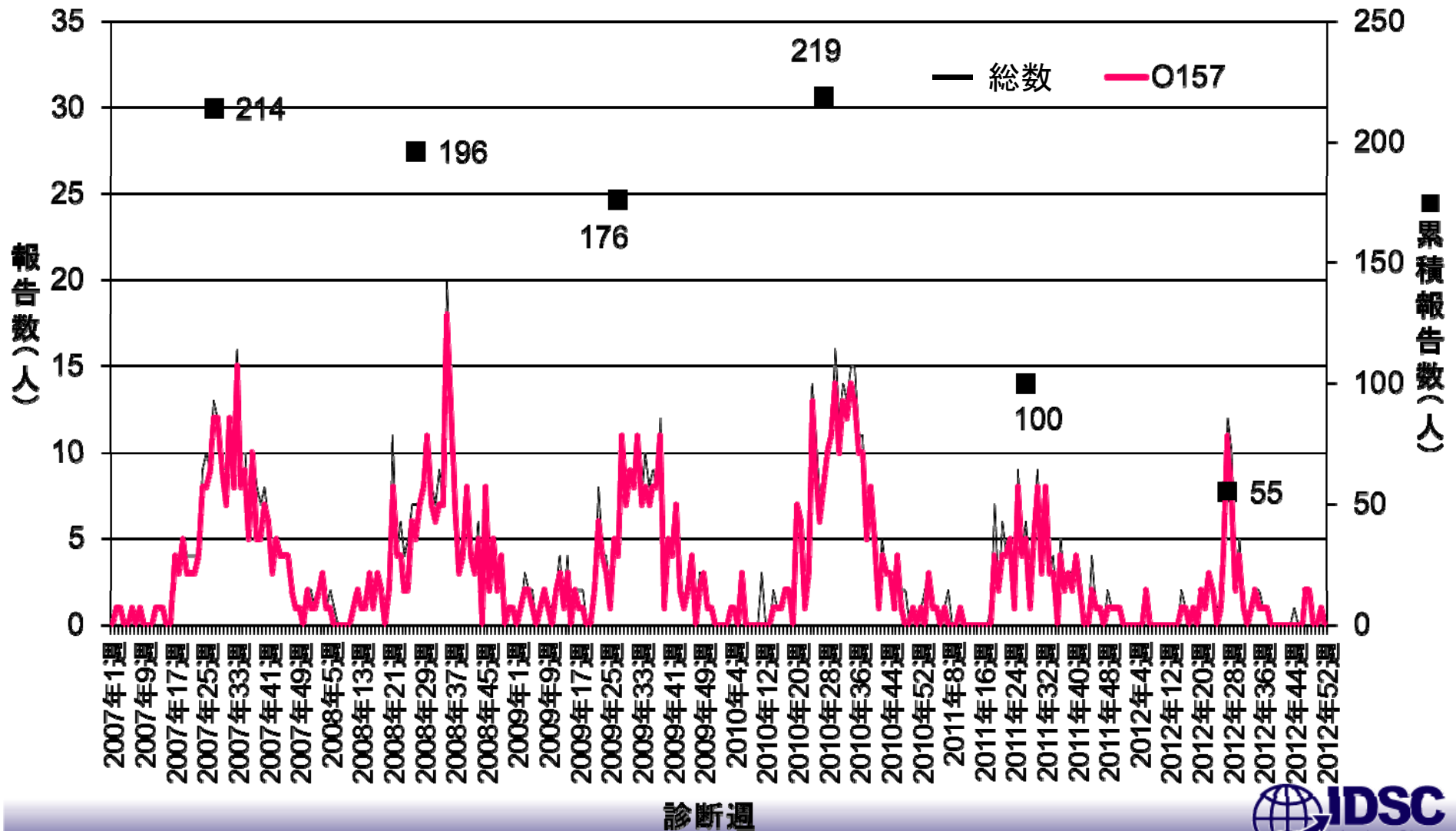


年別・年齢群別腸管出血性大腸菌O157感染症報告数

(有症状者のみ、集団発生除く) (2007-12年)

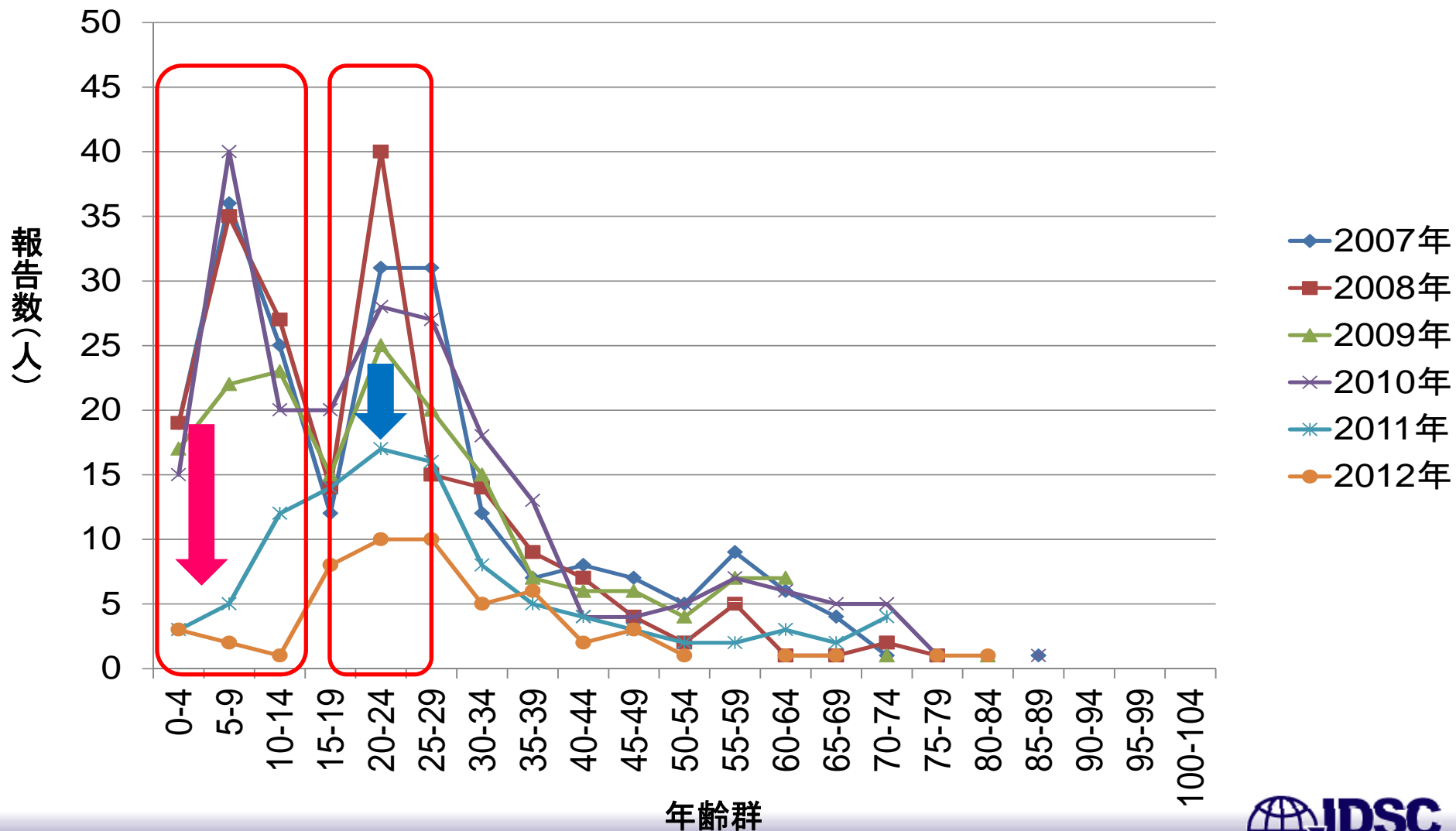


週別・血清群別腸管出血性大腸菌感染症報告数・累積報告数 (有症状者のみ、集団発生除く)(2007-12年) 生肉または生レバーの記載あり



年別・年齢群別腸管出血性大腸菌O157感染症報告数

(有症状者のみ、集団発生除く)(2007-12年) 生肉または生レバーの記載あり



生肉の規格基準・生レバー禁止 前(2010年)と後(2012年)のリスク比較

- 生か半生の牛肉 (PAR%16.9%)
OR=13.3, 95%CI:4.4-39.8
- 牛生レバー (PAR%30.3%)
OR=28.2, 95%CI: 3.0-∞

- 生か半生の牛肉 (PAR%計算不能)
OR=1.6, 95%CI: 0.4-6.9
- 牛生レバー (PAR%計算不能)
OR計算不能

2011年
生肉規格基準

2012年
生レバー禁止

2010年度
調査

症例: 53
対照: 221

症例: 63
対照: 257

2012年度
調査

介入前後での比較

まとめ

- O157を原因とする腸管出血性大腸菌感染症の患者（有症状者）報告数は、2011-12年において減少した。
- 集団発生を除いた検討においても同様であり、特に10歳未満、20代前半の減少が大きかった。
- さらに、生肉・生レバー喫食の記載がある報告における減少は顕著であった。
- 同様に、2012年の生肉・生レバー喫食によるO157感染のリスクを2010年と比較すると、著しい減少が認められた。